和教時報

2024年６月15日（土）発行　第2010号（毎月15日発行）
発行所／〒640-8269 和歌山市小松原通3-20　和歌山県教職員組合
TEL 073-423-2261　FAX 073-436-3243　情宣部長／山口法之
1部　20円（購読料は組合費に含みます）

夏期交渉で怒り、要求、職場の問題ぶつける！

和歌山県教職員組合　書記長　川口　貴生

五月二七日、教育三者共闘会議（和教組・和高教・教育庁職組）は夏期交渉を行い、六二人（和教組三八人）が参加しました。夏期交渉は今年度最初の大きな交渉で、秋の確定交渉に向け、県教委に重点要求や職場で起こっている問題を訴える重要な交渉です。

賃金面では、人事院が夏の勧告に向けて「給与のアップデート」と称する改革を検討しており、特に「地域手当の大くくり化」が課題です。地域手当は「勤務地によって民間の賃金水準や物価が異なる」として、勤務地によって賃金に格差を設ける矛盾のある制度ですが、この物価高騰のなかで引下げとなれば大問題です。県教委は私たちの主張に理解を示しつつも「現時点では情報がない」と答えました。

多忙問題では、参加者から「土日の勤務時間が記録されていない」「ノー残業デーに早く帰る分、他の日の帰りが遅くなる」「小学校だが、勤務時間を超える駅伝指導が負担だ」など発言がありました。県教委は昨年、県人事委員会から「（超勤縮減の）結果を出す必要がある」と指摘されており、県教委としてどう対応するのか追及しましたが、明確な回答がなく、参加者から怒りの声があがりました。県教委は教職員の服務監督権が地教委にあることを理由に、小中学校の教職員の勤務時間を把握していません。把握し公表するよう、強く求めました。駅伝については、県ジュニア駅伝の要項に「教職員が勤務時間外に指導していれば失格」などの条件を入れるよう求めました。

障害児学級担任の「保護者に申し訳なく思っている」などの声も紹介され、県独自に障害児学級の編成基準を引き下げるよう求めました。

先読み加配の条件拡大や育児短時間勤務者の定数外化、六〇歳以上の教職員の賃金水準改善、会計年度任用職員の更新上限撤廃なども大きな課題です。

県教委と対等の立場で交渉できるのは、組合の値打ちです。確定交渉に向けて賃金・労働条件の改善をめざしてともにがんばっていきましょう。

輝いてワンショット　ぼくも参加したよ
（全国一斉宣伝行動より）

ピンポイントスポット 420

家の周りで、ウグイスやキジの声が聞こえる季節になってきました。数年前からキジが、つがいで近くのミカン畑に巣を作っており、子連れで道路を渡っている姿も見られます。

近年、ミカン畑が放棄地となり、あちこちで荒れた様相が見られるようになりました。キジの親子も巣の場所を少しずつ移動しながら、より良い環境を求めているようです。

先日、キリマンジャロの氷河が、ものすごい勢いでなくなっているとの報道番組を見ました。その場所は二〇年間でほぼ、氷がなくなったそうです。

今、世界中が本気になって、思い切った手を打たないと、自然環境が激変し、人間にとっても住みにくくなるのは、誰の目にも明らかです。

「キジが少しずつ移動し」ではすまない世の中が、すぐそこまできています。

（Y）

新組歓迎会

和歌山市支部へようこそ♪

和歌山市支部　書記長　田畑　雄介

毎年恒例新組歓迎会を行いました。

昨年度、みなさんの奮闘で三五名の新規加入者を迎えることができたこと、講師組合員の採用が多かった事もあり、他郡市から来た方も含め、たくさんの対象者が参加してくれました。

今年の余興は有功東小学校の神﨑先生によるけん玉パフォーマンス。見たこともないすごい技がたくさん飛び出して、来てくれていた子どもたちは目を輝かせてみていました。会場からも大歓声でした。歓迎会が終わった後、神﨑先生に技を教えてもらって、早速学級で見せよう!という方もいて、遅くまで練習していました。

お楽しみ抽選会では、宮前小学校臼石先生と松江小学校内藤先生の青年部コンビが仕切ってくれました。今回は、「フラッシュ」という連想ゲームで順位を決め、上位の方から景品を選びました。「フラッシュ」は楽しいだけでなく、参加者同志が共感したり、意外な一面が知れたりとお互いを知る上でとてもよかったです。小中支援学校、どこでも使えそうなので、ぜひ♪

四月から既に新しい仲間が六名増えています。今年度も、新しい仲間をたくさん迎えるために、組織拡大、仲間づくりの取り組みを各職場でもよろしくお願いします。

支部親睦交流会

かわいい子どもたちとのふれあいに力をもらった

有田支部　書記長　清水　恵

今年の交流会は、子ども連れでも参加しやすいように、土曜の午後に計画しました。最高の天気に恵まれた五月一八日、子ども一一人を含めた三五名の参加で、会場はほぼ満席になりました。

食事を楽しみながら各テーブルでの会話が弾みます。元同僚との、久しぶりの再会の喜びもありました。青年部の実行委員が計画した、クイズやゲームに各テーブルのメンバーが協力して取り組み、正解が出るたびに大きな歓声が上がっていました。

後日、日頃は子どもたちと接する機会が少ない事務支援員の方から、「かわいい子どもたちとのふれあいに力をもらいました」という、うれしい感想を聞かせてもらいました。

残念ながら、新規採用の方の参加はかなわなかったのですが、これからもお誘いの声をかけ、ふれあいの場を広げていきたいと思っています。

催しのたびにご無理をお願いしている、〝レスト喫茶ドンキー〟スタッフの皆さん、どうもありがとうございました。

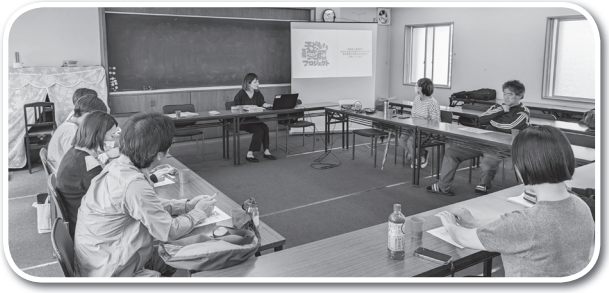
ぶっちゃけトーク報告

和歌山支部　和歌山盲分会　中尾　久美子

「子どもの笑顔実現プロジェクト」のみなさんと企画した、ぶっちゃけトーク会について報告します。

今回は障害児学校に勤務する教師と、子どもさんが障害児学校に通っている保護者の方が参加されました。自己紹介もそこそこに、まずは「連絡帳」についての話題に。学校や家庭での子どもの様子を知る方法の一つとしての連絡帳ですが、それについて保護者の方が日頃感じておられることや、学校現場の現状を共有しました。連絡帳のやりとりの方法やニーズは実に人それぞれであることがわかったとともに、あくまで連絡帳はコミュニケーションツールの一つであり、大事なのは「いかに共有すること」であるかということや、保護者との関係作りを軸にしながら連絡帳の使い方を工夫することが安心に繋がるのではないかということが話されました。

また、特別教室が減らされたことや教育課程が変更されたことなどについて、保護者の方に十分に説明がされていない点についても意見が出されました。保護者に対する情報提供の仕方が果たして適切かどうか、学校と家庭双方の立場から考える必要があることを確認しました。予想通り、時間に収まりきらないくらい話が盛り上がり、集まって気持ちを吐露できる場の大切さを感じた時間でした。



どなたでも気軽にきてね～

第69回日本母親大会in和歌山

2024年９月28日（土）・全体会～29日（日）分科会
於：和歌山市内各会場

「第69回日本母親大会in和歌山」現地実行委員会事務局　西川　静代

2024.1.20 第１回現地実行委員会から、諸準備を積み上げてきています。

「平和な日本・世界がいい」「子どもの生命を守りたい」「楽しく働ける労働環境に」「安全・安心な食を」…。母親大会は、人間が人間らしく生きていくための当たり前の願いを「守りたい、実現したい」と、普通の女性たちが集い、話し合い、その話し合いを基に全国各地で行動し、一つ一つ要求を実現してきた平和運動、要求運動、そして、ジェンダー平等につながる運動です。

始まりは一九五四年三月、アメリカが太平洋ビキニ環礁で行った水爆実験で日本のマグロ漁船が被曝し第五福竜丸の乗組員が被曝死した事件を知り、主婦たちが原水爆禁止の署名を始めたことでした。その運動が「核戦争の危機から子どもたちを守りましょう」と全国に広がり母親大会が生まれていきました。

そのビキニ被災から七〇年の今年、第六九回日本母親大会が和歌山県で初めて開催されるのです。全体会記念講師に、第五福竜丸展示館の主任学芸員　安田和也氏を予定しています。全体会はオンライン視聴も可能です。分科会は、「次世代つながるmtg.」「Dr.サトーのなんでも相談室」から「作家有吉佐和子が時代に問いかけたもの」まで一七分科会と三見学分科会を設定しています。

詳しい内容は、ちらしやポスター、ＨＰ「和歌山県母親大会」「日本母親大会」を見てくださいね。各支部書記局などにもお問い合わせください。

もう一度行きたい

あんなトコ こんなトコ ええトコ

3

明治ロマンとおいしいスイーツ

那賀支部　上岩出小分会　藤岡　俊普

私がもう一度行きたい所は、二〇二四年三月二十一日に和歌山県橋本市の高野口駅前にオープンした、登録有形文化財の建物を改築したカフェ「葛城館」です。高野登山口の駅を象徴するかのように寺院建築を彷彿とさせる木造三階建ての旅館二軒が駅前を占め、その一方が今日に残るこの葛城館です。建築時期を記す資料は残されていませんが、名倉駅開業以降の早い時期、明治時代後期の建築と推定されています。入母屋造り、入母屋造、桟瓦葺で、三階本屋根には千鳥破風と軒唐破風が付き重厚さを感じさせます。庇は銅版葺、正面と東面の二・三階は総ガラス建具となっており、屋根の重厚さと総ガラス建具の軽快さが不思議な調和をみせています。玄関にはかつての常連客が残した看板が残され、当時の賑わいがうかがえます。

和スイーツを楽しめる元旅館のカフェとして、趣深い建物で、一歩店内に入ると、旅館としての雰囲気をそのままに広い玄関が出迎えてくれました。二階に上がると、重厚な木質の建物に食器や鏡などのアンティーク品が並んでいました。古き良き時代にタイムスリップしたかのような感覚になり、また祖母の家のような急な階段がわくわくする気持ちを高めてくれます。

抹茶とバスクチーズケーキを食べましたが、ホイップとあわせて食べると止まらなくなり、息子と競争するようにいただきました。他にもほうじ茶やコーヒーもあり、再び落ち着く時間を過ごしたいと思います。

日教弘教育賞

学校や個人の教育実践をまとめてみませんか？
日教弘は教育実践論文に対して表彰助成を行っています。

◆表彰および賞金額

⑴	最優秀賞２編	・学校部門50万円	・個人部門30万円
⑵	優秀賞　６編	・学校部門40万円	・個人部門20万円
⑶	優良賞　８編	・学校部門30万円	・個人部門15万円
⑷	奨励賞（上記外論文）	・学校部門10万円	・個人部門５万円

和歌山支部で選考後２～３編を本部へ推薦します。
また本部推薦以外にも支部表彰があります。

◆９月末日　日教弘和歌山支部　メールにて応募下さい

※詳しくは「日教弘和歌山支部」のホームページをご覧ください。

https://www.nikkyoko.or.jp/company/wakayama/

公益財団法人　日本教育公務員弘済会和歌山支部　TEL 073-421-7881

今年は広島ですよ！ 原水爆禁止世界大会・広島

今年は広島と長崎への原爆が投下から79年目となります。核兵器禁止条約の署名国は93か国、批准国は70か国となっていますが、いまだに日本は条約に批准していません。ロシアやイスラエルはウクライナやパレスチナに対して核の威嚇を行っています。“昨年のＧ７サミットで”岸田首相は核の抑止力が不可欠と示しました。唯一の被爆国の首相とは思えません。８月４日（日）15:00から６日（火）13:00まで広島（グリーンアリーナなど）で行われる大会に参加して、「核兵器のない世界」を実現しましょう。参加希望の方は和教組までお問い合わせください。